

4 学校教育計画

項 目		目 標 ・ 方 針 及 び 計 画	
(1)	学習活動	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○確かな学力を育成するため、学習習慣の確立と学習意欲の向上を目指す。 ○生徒が能動的に学習できるような学習環境の構築を図る。 ○わかり易い授業・定着度の高い指導方法などを模索する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">重点1①</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">重点1②</div>	計画	<ul style="list-style-type: none"> ○新入生に対してのオリエンテーションや年度当初の授業を通して、国数英を中心とする教科の学習についての初期指導を行う。 ○生徒自身が学習の成果を蓄積していくよう、意識づけを行う。 ○学習時間を調査し、学習習慣の実態を把握する。 ○教科面談や担任面談を通して学習方法の指導を行い、学習意欲の向上や学習内容の定着につなげる。 ○アクティブラーニング型授業やICT機器を活用した授業に関する研究・実践の機会を設ける。
(2)	学校生活	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣（挨拶・時間・頭髪・服装）を確立するとともに、マナーやルールを遵守する社会性を身につけさせる。 ○その時、その場で、どのような行動が適切か、自分で考え決めて実行する「自己指導能力」を育成する。 ○学校行事や委員会活動に積極的かつ主体的に取り組む態度や能力を養う。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">重点2①</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">重点2②</div>	計画	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣を確立するために、自己指導能力や規範意識を高めるための声かけを積極的に行う。また、全教職員で指導に対する共通理解を図るとともに、必要に応じて適切な個別指導を行う。 ○学校行事や委員会活動に、生徒が積極的かつ主体的に取り組めるように、生徒会を中心に生徒の意見や要望を集約し反映する。
(3)	進路支援	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○自己の可能性を発見し、個性や能力に応じた進路目標を設定し、実現できるように支援する。 ○進路意識の高揚を図るため、キャリア教育を推進する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">重点3①</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">重点3②</div>	計画	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年と連携を図り、あらゆる行事や活動を進路指導に位置づけ、早期からのグラデュエーションポリシー自己評価やキャリアパスポート作成を通して、主体的に学ぶ態度の育成と進路意識の向上を図る。 ○学習・生活実態調査を実施し、生徒の実態を踏まえて担任や教科担当者との個人面接により、家庭での学習習慣を定着させ、目標実現のための学力をつける。 ○進路ガイダンス(1年)、進路研修旅行(2年)、高大連携事業(情報コース)、進路講演会(全学年)等を実施し、進路意識の高揚を図り、短期的な目標だけでなく、卒業後の進路を意識した長期的な目標を設定できるようにする。

項 目		目 標 ・ 方 針 及 び 計 画	
(4)	特別活動	目標	○部活動及び地域活動や校外活動に積極的かつ主体的に参加することで、個性の伸長を図るとともに、利他の精神を育み、周囲と好ましい人間関係を構築できる態度や能力を養う。
	重点4① 重点4②	計画	○ <u>部活動を通して自己の成長が感じられるように、部活動に意欲的に参加させるとともに、日々の活動の取り組み方を考え工夫し、実行できるように指導する。</u> ○ <u>生徒会・委員会・HR等での地域ボランティア活動や行政主催の研修やボランティア活動への参加を積極的に呼びかけ、1人でも多くの生徒に校外活動を体験させる。</u>
(5)	その他	目標	○情報教育の推進を図るとともに、情報教育のあり方について継続的に見直しと改善を図る。 ○学校のICT環境を整備し、教員のICT指導力の向上を推進する。
	重点5① 重点5②	計画	○ <u>情報課題研究(情報コース及び文系選択)の授業において、生徒が研究の方針や手法を確認する機会を増やし、研究の信頼性を高める。</u> ○ <u>「1人1台タブレット端末」を使用できる環境を整備するとともに、講習会やマニュアルなどを充実させて、ICT機器の授業での活用を促進する。</u>